

令和5年度 村上市立神納小学校の学校経営方針

～子どもは、学校・家庭・地域の宝物～

1 はじめに

神納小学校は、旧神納小学校と神納東小学校、西神納小学校が統合し、令和2年4月に開校しました。今年度は開校4年目を迎えます。開校以前は、それぞれの学校が「地域とともに歩む学校」として充実した教育活動を展開してきました。また、ここ神納地域には豊かな自然や風土、伝統により培われてきた尊い気質があり、住民に脈々と受け継がれてきました。そのことが、例えば、責任感が強いこと、優しく思いやりがあること、従順で協調性があることなど、子どもたちのよさにつながっています。私たちはそのことに感謝するとともに、統合4年目も、さらに継続して地域のよさを引き継いでいこうと考えます。

今年度は、「子どもは、学校・家庭・地域の宝物」をキーワードに、子どもたちの「知・徳・体」のバランスの取れた成長を目指し、教育活動に取り組んでいきます。地域とともに積み上げてきた実績もさらに発展させ、全教職員が「チーム神納小」として一丸となり、信頼される学校づくりに努めます。

2 社会的背景から

グローバル化や情報通信技術の進展、少子高齢化など、社会は急激に変化しています。また、子どもを取り巻く状況の変化に加え、複雑化・困難化した課題も山積しています。子どもたちには、今後の予測困難な時代を生き抜くために必要な力を身に付けさせなければなりません。基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力などの育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の形成など、たくましく生きていく様々な力が求められています。

このような背景をもとに、新しい時代の子どもたちの未来を構想し、学校の教育力・組織力をより効果的に高めていきます。

3 村上市の教育基本計画から

市では、「第3次村上市教育基本計画」を策定し、「郷育のまち・村上」～郷に育ち・郷を育て・郷が育てる～を教育の理念に定めました。基本目標の「目指す子どもの姿」として、「郷に生きている」ことに自信と誇りを持ち、自らの進路を切り拓いていくことのできる実力（知力・気力・体力・徳性）を備えた子どもを掲げています。

学校には、子どもたちが育った地域に、愛着と誇りをもち、郷土愛を育くませる役割があると考えます。また、市の「郷育」推進の中心である「地域の子どもは地域のみんなで育てる」という視点を受け止め、より高い教育の成果を目指していかなければなりません。そのために、学校は、家庭や地域とより一層連携・協働して教育活動に取り組んでいきます。

4 働き方改革と目指す教師像

子どもたちにとって楽しい学校、保護者・地域にとって子どもを通わせたい学校が、目指す学校の姿です。その実現には教職員一人一人の力を高め、「チーム神納小」を合言葉に集結することが必要であり、心身ともに健康な教職員の存在が不可欠となります。

そのために、学校全体で働き方改革を進め、教職員の仕事と生活の調和・調整を目指し、教職員の日常が充実したものとなるように取り組んでいきます。そのことが、家庭や地域とともに歩む信頼される学校につながるものと考えています。

《働き方改革の視点》

- ① 教職員の創意工夫や特長を生かすとともに、教材等の共有化を図る。
- ② 学校行事や教育活動の見直しを行う。
- ③ 家庭や地域の理解と協力を得る。
- ④ 校時表の見直しによる研修や会議の時間を確保する。また、放課後の時間を確保する。

《目指す教師像》

- ① 子どもに優しく寄り添う教師。
- ② 教育への情熱をもち、「チーム神納小」で学び合う教師。

- ③ 人間性豊かで、保護者や地域と連携・協働する教師。
- ④ 心身共に健康で、自分も家族も大切にしている教師。



5 教育目標と重点目標

- (1) 教育目標
いきいきと あたたかく たくましく
- (2) 重点目標
 - ① 進んで考え、学び合う子（知）
 - ② 思いやりの心をもち、やさしくできる子（徳）
 - ③ ねばり強く、心と体を鍛える子（体）

6 経営の具体

「目指す子ども像」

- ① 主体的に学び、最後までやり抜く子ども。
- ② 友達を大切にする子ども。
- ③ 元気よくあいさつする子ども。
- ④ 学校や地域が大好きな子ども。
- ⑤ 「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に伝える子ども。



(1) 重点課題について

- ① 確かな学力 『主体的・対話的で深い学びの実現』
 - ・ 子どもの思考力・表現力の育成を図るために、主体的に考え、仲間と学び合う授業（「分かった」「できた」「次はこうしよう」が聞こえる授業）を実践します。
 - ・ 基礎学力の定着を図るために、全校テスト等を実施するとともに、個に応じた指導にも力を入れていきます。
 - ・ 家庭学習の習慣化など望ましい学習習慣を身に付けさせるために、家庭学習強調週間を計画的に実施するとともに、家庭と連携していきます。
 - ・ タブレットを授業や家庭学習で効果的に利活用します。
- ② 豊かな心 『思いやり・感謝の心の育成』
 - ・ 思いやりの心、感謝する心を育てるために、お先にあいさつの励行や言葉遣い、他者との関わりなどを重視した指導を行います。
 - ・ 関わり合う力の育成を目指し、縦割り班活動及び異学年交流を実施し協調性を育てます。
 - ・ 「チャレンジ精神」のもと、学習面、運動面、人間関係の交流の場において、強い意志をもち、進んで取り組もうという態度を育てます。
 - ・ 地域との交流・協働の場を設定し、地域とのつながりを深めていきます。
- ③ 健康な心と体 『体力の向上と望ましい生活習慣の育成』
 - ・ 基礎体力の定着を図るために、めあてに向かって取り組む体育授業、意欲を高め、達成感、充実感をもたせる体育授業を実践します。
 - ・ 基本的な生活習慣の定着のために、食育及び健康に関する指導の充実を図ります。
 - ・ 「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発とメディアとの付き合い方について家庭と連携した指導の充実を図ります。
 - ・ 体力の向上、健康の増進を目指し、学校と家庭や地域が子どもたちの生活実態に視点を当てた情報の共有を行います。

「目指す学校像」

- ① 一人一人を大切にする居心地の良い学校。
- ② 地域の特色を生かした教育活動を推進する学校。
- ③ 家庭・地域と連携した安心・安全な学校。
- ④ ふわふわ言葉・ふわふわ行動あふれる学校。



(2) 家庭や地域との連携・協働について

課題解決のためには学校と家庭や地域の連携が欠かせません。保護者及び学校運営協議会を中心とした「協働」という双方向の関係をつくっていきます。特に、授業や学校行事などの具体的な場面において、学習ボランティアの活用や地域に向けた発信を積極的に行い、家庭や地域の要請に応えることができるようにすると共に、何でも報告・相談できる「開かれた学校」を目指していきます。